

西神ニュータウン研究会 会報

第237号 2024年5月

■年次総会 (4月24日開催)

- ・2023年度の活動報告及び決算、2024年度の活動方針と予算、及び世話人の選出について、議案書通りに承認されました。
- ・従来ユニティ(大学共同利用施設)の会議室を無料で使用できていたが、今年度から体制が変わり、有料となったため、当研究会の活動維持のため、やむを得ず会費値上げを提案し、承認されました。(年会費=2,000円、例会1回=300円)

■第237回例会記録

- ・日時 2024年4月24日(水) 18:00~19:45
- ・場所 神戸市外国語大学サテライト(旧ユニティ) ・参加22名
- ・テーマ 「大海一雄氏の足跡をたどり、ニュータウンの未来を考える ~ヴィンテージタウンをめざして~」
- ・進行 大塚映二氏(西神ニュータウン研究会世話人)

■大海一雄氏の足跡を簡単に振り返りました。

大海一雄氏の経歴	大海氏と西神ニュータウン研究会	大海氏の例会での発表(1)
1932(昭和7年) 誕生 1955~1993 神戸市役所勤務 うち、1978~1989 神戸市住宅供給公社 1996~2001 流通科学大学教授 2001~2005 兵庫県建築士会会長 2003~ 西神ニュータウン研究会(代表世話人、会長を歴任) 2024(令和6年) 死去	・流通科学大学教授時代にニュータウンをテーマとした公開講座講師 ・公開講座終了後、受講者有志及び研究学園都市とその周辺の大学高専教員有志とともに、西神ニュータウン研究会を結成 ・代表世話人を務め、その後会長に就任 ・ニュータウンに関して、ありとあらゆるテーマを取り上げ、毎回ゲストを呼び、参加者と一緒に自由闊達に意見交換 ・研究会はクローズドではなく、ニュータウンに興味があればだれでも参加できるオープンな組織	①(第24回)「阪神大震災と西神ニュータウン」 ②(第55回)「人口動向から見た西神ニュータウン」 ③(第65回)「西神ニュータウンで働く人々」 ④(第83回)「日本のニュータウンと西神ニュータウン」 ⑤(第112回)「神戸の住宅地開発の系譜」 ⑥(第132回)「古老に聞く平野町の歴史」(コロコロシリーズ第1弾) ⑦(第141回)「蘆谷町の歴史と文化を語る」(コロコロシリーズ第2弾) ⑧(第151回)「伊川谷と西神ニュータウン」(コロコロシリーズ第3弾) ⑨(第164回)「押部谷の歴史物語」(コロコロシリーズ第4弾) ⑩(第172回)「35年目の西神ニュータウン」

大海氏の例会での発表(2)

⑪(第176回)「岩岡の歴史物語」(コロコロシリーズ第5弾)
⑫(第184回)「西区 神出: こんなまち」(コロコロシリーズ第6弾)

●第184回特別発表
・日 時 2024年4月24日(水) 18:00~19:45
・場 所 西神ニュータウン研究会(旧ユニティ) 会議室
・テーマ 歴史・地理・文化
「西神ニュータウン研究会」の歴史を振り返り、今後の活動方針について話し合いました。

●発表者の経歴
神出 正樹(神戸市役所元職員) 神出 正樹(神戸市役所元職員) 神出 正樹(神戸市役所元職員)



大海氏の例会での発表(3)

⑬(第194回)「西区: 玉津の歴史物語」(コロコロシリーズ第7弾)
⑭(第206回)「西区: 旧村の歴史 ~コロコロシリーズ総」

●第206回特別発表
・日 時 2024年4月24日(水) 18:00~19:45
・場 所 西神ニュータウン研究会(旧ユニティ) 会議室
・テーマ 歴史・地理・文化
「西神ニュータウン研究会」の歴史を振り返り、今後の活動方針について話し合いました。



ニュータウン人・縁卓会議(1)

・全国のニュータウンで活動している人々の交流の場として、「ニュータウン人・縁卓会議」を開催(第1回は千里ニュータウン)・第5回を2012年に西神ニュータウンで開催「ニュータウンからヴィンテージタウン」をテーマに掲げた。大海氏はホストニュータウン住民の先頭に立ち、準備から実行まで奮闘

●テーマ説明
「ニュータウン人・縁卓会議」は、全国のニュータウンで活動している人々の交流の場として、2012年に西神ニュータウンで開催された。この会議は、ニュータウンの歴史や文化を語り、今後の活動方針について話し合う場として開催された。

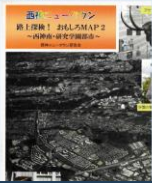


大海氏の著書、出版物（2）

西神ニュータウン研究会としての自費出版物

「おもしろMAP 1（西神中央地区編）」2008

「おもしろMAP 2（西神南ニュータウン、
研究学園都市編）」2009

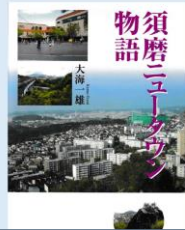
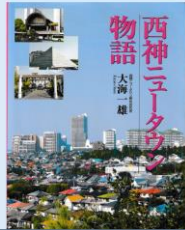


大海氏の著書、出版物（3）

西神ニュータウン研究会発足後の主な著書

「西神ニュータウン物語」神戸新聞総合出版センター 2009

「須磨ニュータウン物語」神戸新聞総合出版センター 2012



大海氏の足跡まとめ

- ・「住まい」をライフワークとした。
- ・大阪の**食い倒れ**、京都の**着倒れ**に対して、神戸の住み倒れを標榜しようとするが、住まいが「倒れる」のはイメージが悪いので、「**住み道楽**」を打ち出した。
(大阪=食道楽、京都=着道楽)
- ・興味関心は住にとどまらず、ニュータウンとその周辺地域のあらゆる分野に広がった。特に歴史や地理分野での研究に余念がなかった。
- ・地に足を付けた実地研究に動しんだ。

□大海さんの思い出&意見交換

・西神ニュータウン研究会発足以来、いっしょに活動してきた。私と大海さんが出会うきっかけは、地下鉄海岸線の活性化をニュータウン全体を視野に入れて考えてみたいと思った時、ちょうど公開講座があったので参加した。その後、研究会が発足し、第1回例会で発表させてもらった。

・私も公開講座に参加した一人で、公開講座が終わるころアンケートがあり、何らかの形で続けたいという意見が多く、研究会の発足となった。最初は難しいことを言わないでまず1年くらいやってみようといった感じで始まった。

・「ニュータウンはふるさとか？」という意見に対し、実際に子どもたちに聞いてみることにし、ニュータウンの見所を募集したところたくさん応募があった。これを「見所30選」として発行した。

・同じマンションに住んでいることがきっかけで付き合いが始まり、各地の「道標」巡りに運転手として同行した。資料収集に熱心で学者タイプでもあったが、ゴルフも好きで90歳までやっていた。

・「生活圏の研究」をテーマにしていた関係で、当研究会でも何回か発表させてもらった。大海さんは住まい・街づくりへの関心はもちろん、歴史への関心も高かった。

・偉そうにしない物静かな方だった。歴史好きな方が多いし、もっと深めたらということで、「史談会」結成を提案された。先住民の文化を大切にする姿勢は引き継ぎたい。

・須磨ニュータウンから来た。タウンハウスに住んでいるが、かつて大海さんが隣に住んでおられた。すごい方だったことを改めて知った。

・西神で初めて住んだのが和風タウンハウスだった。長屋タイプだったが、中庭があり、近所付き合いやコミュニティの生まれやすい工夫があった。

・西神の住宅には大海さんの住まいの思想が込められているところが多い。2×4工法を広めたことや輸入住宅（シアトルバンクーバーヴィレッジ）の導入など特筆すべきものがある。

・5階建てのマンションと戸建て住宅との中間の（いいとこどりをした）住宅を作りたいという思いが強かった。これがタウンハウスに結実した。

・大海さんは住宅を供給、建設するだけでなく、実際に住んでみることも実践された。長屋型タウンハウス、戸建て型タウンハウス、分譲マンション、最後はケアホームで旅立った。

・毎回の例会を会報として記録に残してきた。これを見るとニュータウンのありとあらゆる情報が詰まっていることがわかる。また、大海さんの人脈やつながりを感じることができる。いろいろ大変なこともあるが、続けることの大切さを改めて思う。

文責 大塚